

令和6年度 第2回 甲賀市環境審議会 議事摘録

開催日時	令和6年（2024年）9月19日（木） 14時00分～16時15分
開催場所	甲賀市役所 別館 会議室101
出席委員(敬省略)	8名（欠席なし） 【委員】会長 竺文彦、職務代理者 中島仁史、横田岳人、金子利佳、 石山利則、村田吉美、森脇賢、糸井豊美
事務局(敬省略)	8名 【市民環境部】保井純子、松下泰也 【環境未来都市推進室】相原功志、西野久俊、中嶋裕也 【生活環境課】方山淳、三鼓明寛、田原正史
コンサル	1名（株式会社オオバ）
傍聴	なし
会議次第	1. 市民憲章唱和 2. あいさつ 3. 審議事項 （1）甲賀市環境基本計画の改定について【資料1～3】 4. 次回審議会日程
配布資料	・【資料1】第3次甲賀市環境基本計画（素案） ・【資料2】主な変更箇所 ・【資料3】第3次環境基本計画（たたき台）に係る環境審議会 委員意見一覧

会議内容

1. 市民憲章唱和（司会朗読）

2. あいさつ

3. 審議事項（会長進行）

事務局〉（【資料１】、【資料２】【資料３】について説明）

会長〉 p. 2-14 で、カヤネズミの巣だけではなく、成体の写真が掲載できないか。巣が生態としての特徴だろうが、かわいいネズミである。また、オオタカは草地を歩いているような写真となっているが、とまり・飛翔の写真のほうがいメージとして良いのではないか。

委員〉 こうした図書に掲載する写真は限られているので、適当な写真があれば良いが、無い場合は仕方ない気がする。特にカヤネズミ成体の撮影は難しいと思う。また、ミゾゴイの写真はないか。

事務局〉 みなくち子どもの森などでまず探し、次のステップとして県や関係機関の方に提供いただくことが可能かどうか相談をしてみたい。

委員〉 オオタカは最近いろいろな地域で有名になっているが、ミゾゴイは甲賀市の特徴的な種だと思う。滋賀県内では繁殖活動が確認されているのは甲賀市くらいではないか。

会長〉 p. 1-3 で、「４Ｒ」を「３Ｒ＋Renewable」に変更したとのことだが、この言葉はあまり一般的ではないのではないか。

事務局〉 環境省においては、プラスチック資源循環促進法等を受け、現在は「３Ｒ＋Renewable」という言葉を積極的に普及しようとしている。

委員〉 p. 3-2 の内容が、すんなり頭に入ってこなかった。ここの数値は何を意味しているのか。

事務局〉 前回のたたき台は、評価が○か×であったところを、今回の素案では、「達成率」という数値として表した。「達成・未達成」であった要因を分析した結果を文章として記載している。また、表が２段になっている部分が特にややこしくなっているところだが、まず、基準値は第２次甲賀市環境基本計画（平成２９年）の策定時に設定されている。よって、表の１段目には、平成２９年度に設定された基準値と最新の実績値を記載し、表の２段目には、令和２年度に見直した目標数値と、上段と重複するが最新の実績値を記載している。

委員〉 基準値と比較して実績値の達成率で評価すればよいのではないか。見直して目標値を変更することは一般的なことなのか。

委員〉 一般企業において実績公表時に上方修正・下方修正とかあるが、そういった捉え方なのか。

委員〉 目標をずらしたとも読み取れてしまう。

- 委員〉 特に温室効果ガス排出量については、目標値を変更すると何をやっているのか分からなくなる。
- 委員〉 製造業の削減目標値を自治体における数値に当てはめて、暫定的な目標値として評価していると理解したが、もう少しスマートな表現にできないか。
- 事務局〉 温室効果ガス排出量については、引用する根拠資料が変わってきた状況であるため、それに応じて目標値も変更している。1人1日当たりのごみ排出量については、恣意的に目標達成率を高めるようにした訳ではなく、より分かりやすく記載したつもりが逆に分かりにくくなっているため、表現方法を改めて検討したい。
- 委員〉 p. 5-9 の1人1日当たりのごみ排出量数値の整合が取れていない。
- 事務局〉 p. 5-9 の数値を修正する。
- 委員〉 見直しを行わなかった場合の達成状況と見直しを行った場合の達成状況の2段階の説明としてはいかがか。
- 事務局〉 再設定という言葉が現時点において再設定したとみとれるような誤解を与えるので、2段階の説明としたい。
- 委員〉 リサイクル率の達成率が▲73%となっているが分かりにくい。目標から遠ざかっているということだろうが、表現を工夫できないか。
- 事務局〉 ごみの排出量は減っていないと思うが、量販店等が行っているプラスチック等の資源化ごみ回収により、市が回収している資源化ごみ量が減っているようにみえることもあり、そうしたところを確認したうえで、追記することで説明できるのではと思う。
- 委員〉 新聞の収集量が減少しているのに、1人1日当たりのごみ排出量が減っていない理由は何かあるのか。
- 事務局〉 1人1日当たりのごみ排出量は減少傾向にあったが、コロナ渦において在宅ワークなど生活様式の変化により、家庭からのごみの発生量は増加し、現在は元のペースに戻りつつある。その他、単身世帯における容器類のごみや通信販売利用による段ボールなど家庭から排出されるごみ量が増加する要因があると思われる。
- 委員〉 リサイクル率の考え方が違ってきているのではないか。以前は家庭からの排出量＝市の処理量であったのが、量販店への持ち込み等が増えて、家庭からの排出量が正しく評価できていないのでは。一方、大規模量販店であれば市民だけではなく他市町からの持ち込みごみ量もあると考えられることから、甲賀市の家庭ごみ排出量＝量販店持ち込み量＋市の処理量でもない気がする。今後、どのような指標値を用いて評価していくか展望を教えてほしい。
- 事務局〉 国において循環型社会形成推進基本計画が今年8月に策定され、資源をしっかりと循環する方針であり、広域的な資源循環があると考えている。そうした動きを今後捉え説明する必要があるのではないかとと思われる。

- 会長〉 このリサイクル率とは、市が収集したごみのうち、どれだけ資源化できているかという話ではないか。スーパー等に持ち込んでいる資源化ごみ量は含めずに市で把握可能なデータでリサイクル率を定義しているのではないのか。これはそういう理解で良いと思われる。
- 事務局〉 リサイクル率の分母は、市が収集したごみ量である。
- 会長〉 この場においては、これ以上のデータは得られないのであるから、得られる数値を確認し、具体的な対策を色々検討しなければならない。
- 事務局〉 ここで記載するリサイクル率とはこのような数字であるという内容を記載して、▲ 73 %の数値をご理解いただけるよう説明したい。
- 会長〉 達成率 73 %ではだめなのか。
- 事務局〉 本来ならば目標値に近づいていくが、今回は当初から下がってしまったため、どうしてもマイナスとなる。
- 委員〉 目標設定時には施策があり、その施策を評価するための指標に量販店への持ち込みごみなどの要因が大きく影響し、前提条件が崩れるということであれば、こうした指標は必要ないという気もする。
- 事務局〉 いま議論いただいている環境基本計画については、一般廃棄物処理基本計画、地球温暖化対策実行計画等のその他計画で記載されている内容との整合を図る必要があり、その他計画で記載している内容で構成している。
- 委員〉 達成率は計算するにしても、市の施策としては達成率が 100%でなくても○というものもあっても良いと思う。
- 会長〉 このあたりは一旦事務局で整理していただき、全体を確認したい。先頭頁から 1 頁ずつ確認していくので意見をお願いします。
- 委員〉 p. 2-5 表 2-2-1 最高気温の表で、甲賀市を一番左にしてはどうか。
- 委員〉 最高気温に関する説明は丁寧に記載したほうが良い。
- 事務局〉 修正する。
- 委員〉 p. 2-8 産業の状況の内容で水質の記載があり、とってつけた感じがある。
- 事務局〉 削除の方向で検討する。
- 委員〉 p. 2-9 再生可能エネルギー導入状況で、滋賀県のうち、甲賀市が導入量 1 位であるのであれば、見せ方を工夫してアピールしてみてもどうか。
- 事務局〉 少し難しい側面があり、甲賀市には森林を切り開いて設置されている太陽光発電もあり、不適正という訳ではないが、景観や災害時などの不安が市民にある中で、県内 1 位となっている現状がある。
- 委員〉 メガソーラーを省いた市民設置数などが増加しているといったデータがあれば、掲載することを検討してはどうか。
- 事務局〉 県内市町の状況については、地球温暖化対策実行計画に記載されているため、この環境基本計画においてはどのように表現するのか検討する。
- 会長〉 この導入状況のグラフは自治体排出量カルテからどのように出力されるのか。今は 10kW 未満と 10kW 以上のみで分かれているが、これがもっと

- 事務局〉 細かく分かれていれば、各発電施設の大小別の導入量が分かるのでは。
- 会長〉 自治体排出量カルテとしては、10kW 未満と 10kW 以上の区分でしかデータは存在しない。
- 事務局〉 甲賀市に設置されている太陽光発電施設の規模等を甲賀市は把握していないのか。
- 事務局〉 F I T ・固定価格買取制度のものは確認可能だが、屋根設置の自己消費など全体は把握できない。なお、環境基本計画においては、現状の導入量を示したうえで、地球温暖化対策実行計画においてももう少し具体的なデータを示し、施策に繋げていく考え方である。
- 委員〉 考え方として、単純に 10kW 未満が家庭で 10kW 以上がメガソーラーであると示して、もう少し家庭の太陽光発電を増やさなければという風に感じてもらえれば良いのではないか。実際、新築の家にはあまり設置しないと思う。
- 事務局〉 構造的に今の太陽光パネルでは重くて難しい建物であっても、今後、軽量のペロブスカイト太陽電池も出てくると思われる。
- 会長〉 再生可能エネルギーポテンシャルのグラフで中小水力発電が少ししかないが、もっと導入してほしい。また、風力発電はあまり導入の可能性がないのか。
- 事務局〉 風力発電は、導入ポテンシャルとしてはこれだけあるが、音や周辺環境等への問題があるなかで、そこからどうしていくのかは政策的な考え方となる。
- 会長〉 もっと小水力発電をやってほしいという思いがある。農業用水路、河川でもできると思う。
- 事務局〉 現在、市で市内 4 箇所において現地調査を実施しており、データを積み重ね、次のステップに繋げていきたい。
- 委員〉 p. 2-16 設問は生活環境系が多く、エネルギーや脱炭素に関する設問が少なく感じるので、今後設問内容を検討してはどうかと思った。
- 事務局〉 地球温暖化対策に関しては、今年度に別のアンケート調査を実施する予定をしている。
- 委員〉 p. 2-16 満足度が低い点として、「ごみの不法投棄がされていない状況」とあり、「ごみの不法投棄がされている」方が、満足度が高いという読み方もできてしまうので、表現に気を付けた方がよい。
- 事務局〉 表現を見直す。
- 会長〉 p. 3-4 ここは 4 R の推進となっているが。4 R と 3 R +Renewable の記載については整理してほしい。
- 事務局〉 現行計画の施策に関するものなので 4 R としている。
- 委員〉 p. 5-8 環境報告書の作成・公表とあるが、これから作成するのか。
- 事務局〉 今後作成することとなる。
- 委員〉 先ほど太陽光発電のネガティブな要素があったが、そうしたネガティブ

な面に対してどう対応していくかが記載されていない。どこかに負の事柄について記載できないか。太陽光発電に限らず全体の話ではある。

事務局〉 どこにどのように記載するかは検討する。

委員〉 最近、民間の産業廃棄物処分場を整備する計画を知り、水質などに不安がある。そうした環境の負の面について市で対応してほしい思いがある。

事務局〉 産業廃棄物処分場の設置許可権者は県であり、環境アセスメントの実施など、ルールに則った手続きを踏めば設置できることになる。もし、設置後に違反等の行為が認められれば、行政として指導していくことになる。

委員〉 処分場に限らず、なぜこんな場所で事業ができているか分からないような案件がある。許可が取れていないという業者もいる。どうして事業場が設置できたのか。

事務局〉 市としてもパトロール等を行っているが市内全てを把握できているわけではない。そうした案件について通報があれば、権限があるところに相談し、適切に指導していく。

委員〉 p. 5-7 環境問題が市民から出てきた場合、市民がどう対応したらよいかわからない。環境教育・学習の推進等については、自然環境のみであり、環境アセスメントの手続き等の仕組等は環境教育の中に含まれていない。そうした法整備についての学習等についても記載してもよいのでは。

委員〉 p. 5-10 山林から搬出される原木（丸太）の生産量の目標値を掲げるとは良いが、その分、植林することが前提であって初めて目標を達成することとなる。

委員〉 p. 6-2 いつ、だれがどんな資料をチェックして、どう改善していくということが分からないため、整理していただきたい。

事務局〉 一般的には夏頃に審議会を開催し、前年度の事業進捗・成果を報告するようにしている。その後、来年度予算に向けて助言をいただく形でPDCAを行っていきたいと考えている。

委員〉 甲賀市がハード・ソフト面でどのようなことを実行したのか見えるような報告書が欲しい。

事務局〉 基本的には現状の形でしっかりPDCAを行っていきたいと考えているので、今後ともお願いしたい。

会長〉 これで、全項目について目を通したため、事務局に作成を進めてもらえればと思う。今後の予定について事務局から説明をお願いする。

事務局〉 いただいた意見を踏まえ庁内で整理する。10月1日の環境未来都市推進本部会議で最終調整を行い、次回3回目の環境審議会に諮り、答申をいただき、10月議会で調整後、11月に再度庁内で整理する。年末にパブリックコメントを行い、年明けに第4回審議会の開催予定と考えている。

4. 閉会あいさつ（職務代理者）

第3次甲賀市環境基本計画の素案ができたのではないかと思います。今回の計画では、生物多様性、ネイチャーポジティブという方向性が追加されたが、開発事業等の計画・実施時に十分に配慮しなければならず、新しい仕組みづくりを考えていかなければならない。「生ごみのたい肥化循環システム」は甲賀市らしい取組だと思うので、新しい方向性についても甲賀市らしい取組がなされていけば良いと思う。